

第1回 研究会

アフリカン・ディアスポラダンスの マルチモーダル民族誌

～ハイブリッド開催～

日時：2025年8月31日（日）13:00～16:00
場所：富山大学五福キャンパス/オンライン

* 対面参加の方には申込み後に教室の詳細をお知らせします。

* オンライン参加の方には申込み後、研究会当日にZoom URLをお送りします

テーマ：アフリカン・ディアスポラ文化のトランスナショナルな研究に向けて

企画趣旨・目的：本研究会は、科学研究課題「アフリカン・ディアスポラダンスのマルチモーダル民族誌」（2025.4～2028.3）の研究活動の一環として開催されるものである。

本研究の目的は、奴隷にされたアフリカの人々によってブラジルに伝承されたアフリカン・ディアスポラダンスの中でも特にブラジル北東部を発祥とする舞踊を事例に、マルチモーダル民族誌を方法論として、音楽との対応関係、文化的特性や伝承されてきた民俗知を明らかにすると共に独自の記譜法や記述を用いた文化の記録保存方法について問い直すことである。本研究会では、2025年2-3月にブラジルでのフィールドワークを実施した輪島と、アメリカ合衆国の黒人教会のフィールドワークを継続的に行ってきた野澤の調査結果を共有し、今後のアフリカン・ディアスポラ文化のトランスナショナルな研究に向けて新たな視点や見解に示唆を得ることを目的としている。

ディスカッサント

● 輪島裕介

大阪大学大学院人文学研究科芸術学専攻教授（音楽学）。博士（文学）。

専門はポピュラー音楽研究、近代音楽史。アフロ・バイア文化にも強い関心を持つ。『創られた「日本の心」神話「演歌」をめぐる戦後大衆音楽史』（光文社新書、2010）で、2011年度の国際ポピュラー音楽学会賞、サントリー学芸賞を受賞。著書に『踊る昭和歌謡：リズムからみる大衆音楽』（2015）、『昭和ブギウギ：笠置シズ子と服部良一のリズム音楽』（2023、ともにNHK出版新書）等。

● 野澤豊一

富山大学学術研究部人間科学系准教授。博士（社会環境科学）。

専門は人類学、ミュージッキング研究。アフロ・アメリカン、アフリカ社会の音楽＝ダンス文化に学びつつ、生の営みとしての歌舞いについて考えている。著書に『音楽の末明からの思考：ミュージッキングをこえて』（2021年、共編著）、訳書にC. スモール『ミュージッキング：音楽は〈行為〉である』（2023年、共訳）など。

司会進行、問題提起

● 林夏木

四国大学短期大学部幼児教育保育科准教授。関西学院大学博士課程後期（社会学研究科・民俗学専攻）在学中。アフロ・ブラジリアンダンス実践者。身体を介して伝承されるアフリカン・ディアスポラダンスの民俗知とは何かを探っている。著書に『映像で学ぶ舞踊学』（2020年、共著）。

対象：研究者およびアフリカン・ディアスポラ文化に興味のある一般市民

参加費：無料

申込み方法：以下のリンクまたは右のQRコードからお申し込みください

<https://forms.gle/cmih8zofWBsf3DAA>

申込み締切日：2025年8月28日（木）

問合せ先：nhayashi@shikoku-u.ac.jp（林）

